

地域における有機性資源循環システム

技術概要

家庭や事業所から発生する生ごみや、公園の剪定枝、周辺森林の間伐材、周辺農業からの蓄糞等のバイオマス系廃棄物を、コンポスト化・肥料化し、市民農園や緑地、周辺農家等で利用、さらに市民農園から周辺農家等で栽培された野菜等を地域で消費する。このように地域単位で有機性資源の循環系を形成するシステム。

新都市での導入効果について

循環系形成による環境負荷低減効果の他、他主体の連携により地域コミュニティの熟成等の効果も期待される。

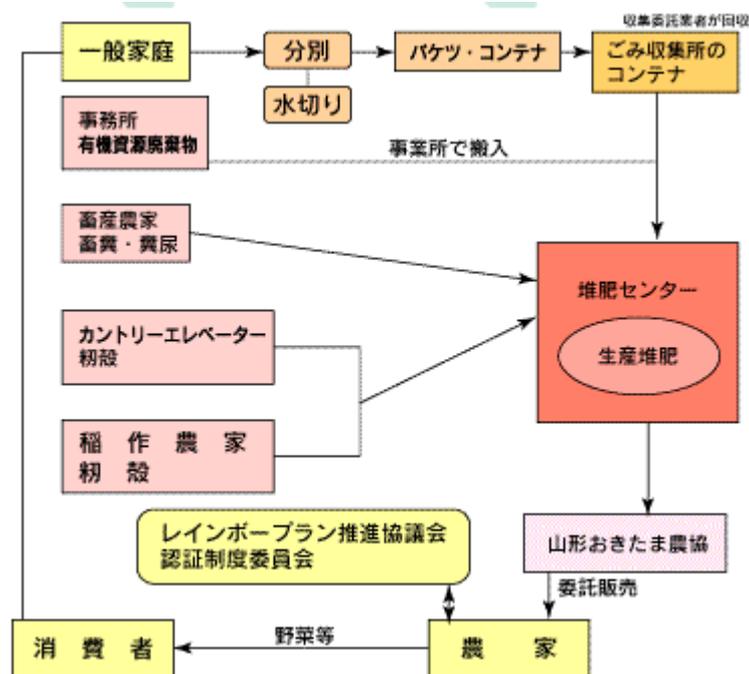
導入における課題（ 対応策 ）

多様な主体が関係するため、各主体間でのコンセンサスをとることが課題。

公的セクターや環境 NGO 等から専門知識を有するリーダー、コーディネーターを派遣し、各主体間の調整を図りながらシステムを構築する。

その他（ 導入状況・技術開発等動向・将来見込み等 ）

具体的な取組み事例として、宮崎県綾町、山形県長井市等の事例がある。



図．長井市における有機性資源循環システムのイメージ

注：各種資料により(株)エックス都市研究所作成